

2011(平成23)年度は温室効果ガス排出量が増加しています。

省エネ・節電に着実に取り組み、2020(平成32)年度の目標を目指しましょう!!



2012~2013(平成24~25)年度に京都市が取り組んだ地球温暖化対策(一例)

市民協働発電制度

市が選定した運営主体が、市民の皆様等の出資により、市内3箇所の公共施設に太陽光発電パネルを設置し、「市民協働発電所」として2013(平成25)年3月に発電を開始しました。出資者の皆様へは、運営主体から地元産品や施設利用・物品購入に充てることができる利用券などで還元されます。



子どもエコライフチャレンジ

子どもの視点からライフスタイルを見直す取組として、家族とともに「子ども版環境家計簿」を活用してエコライフを学び実践する「子どもエコライフチャレンジ推進事業」を全市立小学校で実施しています。



京都市の取組を手本としたマレーシア版子どもエコライフチャレンジのモデル実施に参加した児童たちによる表敬訪問



さらに詳しい情報は、[京都市 年次報告書](#)

検索

地球にやさしいまち・経済・ライフスタイルを目指して

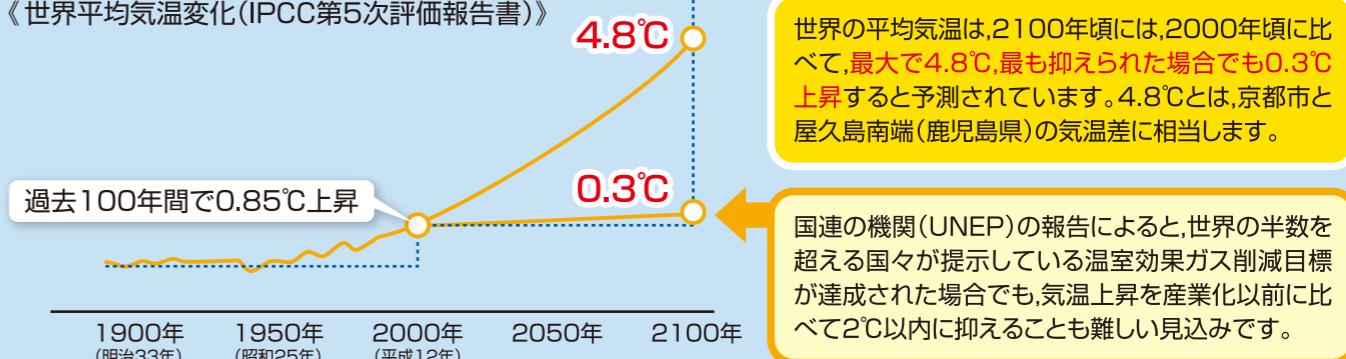
京都市の地球温暖化対策

平成25年度版



地球が温暖化しています

《世界平均気温変化(IPCC第5次評価報告書)》

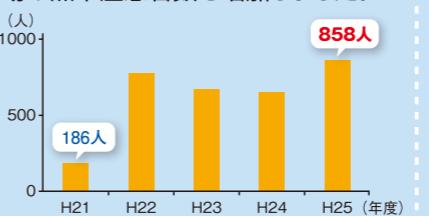


国連の機関(UNEP)の報告によると、世界の半数を超える国々が提示している温室効果ガス削減目標が達成された場合でも、気温上昇を産業化以前に比べて2°C以内に抑えることも難しい見込みです。



地球温暖化が一因と考えられる影響が出ています

2013(平成25)年は、猛暑日の日数が、平年の2倍となる30日を数え、夏場の熱中症患者数も増加しました。



サクラ(ソメイヨシノ)の開花日は、ここ50年間に7.6日間早まり、カエデの紅葉日は約2週間遅くなるなど、文化・観光に影響しています。



2013(平成25)年8月12日には、高知県の四万十市で最高気温が41.0°Cを記録し国内最高記録を更新しました。

また、同年9月に京都市にも甚大な被害をもたらした台風18号では、「大雨特別警報」(数十年に一度の降水量)が初めて発令されました。



地球温暖化の原因は、温室効果ガスの増加です

大気を暖める働きをする温室効果ガスはもともと地球に存在します。

しかし、現在は人為的な排出量が自然の吸収量を大きく超えています。

国内の温室効果ガス排出量の9割以上が二酸化炭素です。二酸化炭素は、快適な生活や経済活動を支えるエネルギーである、石炭や石油などの化石燃料の利用時等に排出されます。

二酸化炭素発生の原因



電気の利用



ガス・灯油の利用



クルマの利用



プラスチックごみの焼却等

温暖化を止めるにはどうしたらいいの?

一緒に考えてみましょう!

エネルギーを減らす

なぜ?

電気を作るときや、ガス・灯油・ガソリンなどを使うときに、二酸化炭素が出ます。だから、エネルギーを無駄なく、賢く使う生活を目指そう！

京都市内で、こんな取組が進んでいるよ！



- 市民生活における省エネ・節電の推進
- 地域ぐるみのエコ活動の促進
- 環境にやさしい住宅の普及促進
- 省エネ・環境教育の推進



【省エネルギー・節電の推進】



【省エネ・環境学習】

エネルギーを生み出す

なぜ?

電気を作るために石炭や石油などの化石燃料を燃やすときに、二酸化炭素が出ます。だから、太陽光など自然の力を賢く使ってエネルギーを作ろう！

京都市内で、こんな取組が進んでいるよ！



- 市民生活や事業活動における再生可能エネルギー^{*}利用設備の普及促進
- 地域で再生可能エネルギーを賢く使うためのしくみづくり

*利用後も比較的短時間で再生でき、資源が枯渇しないエネルギー



【廃食用油から「バイオ軽油」の製造】



【太陽光発電設備の導入促進】

ごみを減らす

なぜ?

石油から作られるプラスチックは、ごみとして焼却されるときに二酸化炭素が出ます。また、生活用品の製造には、エネルギーが使われ、二酸化炭素排出が伴います。だから、ごみそのものを減らすことが大切です！

京都市内で、こんな取組が進んでいるよ！



- そもそもごみを出さない取組
- ごみは可能な限りリサイクル
- ごみは安全に処理して最大限活用



【雑がみ（包装紙・手紙・紙箱など）のリサイクル】



【イベントでのリユース食器の普及】

環境保全と経済発展の両立

なぜ?

京都が誇る、省エネなどに役立つ環境技術の研究開発・事業化等は、環境を保全しつつ経済を発展させます。温室効果ガス削減量を、経済的に評価し「見える化」するなどによる、事業活動の省エネも大切です！

京都市内で、こんな取組が進んでいるよ！



- 産学公連携による環境産業の育成・振興、環境技術の開発
- 環境・エネルギー関連産業の事業拡大支援
- 事業活動における省エネ・節電の推進
- 環境価値の「見える化」



【エコ・エネルギー産業の振興を行う
京都産業育成コンソーシアム】



【環境価値を活用した低炭素活動】

歩く暮らしを大切にする

なぜ?

クルマの燃料となるガソリン・軽油などは燃焼時に、二酸化炭素が出ます。だから、歩くことを楽しみ、公共交通を利用する暮らしを大切にしよう！

京都市内で、こんな取組が進んでいるよ！



- 既存公共交通の利便性向上
- 歩行者優先のまちづくり
- 歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換
- エコカーの普及促進



【公共交通を利用する暮らしへの転換】



【公共交通の利便性向上】

森を再生する

なぜ?

健全な森林は、二酸化炭素を吸収する重要な働きをします。でも、市内には育成・保全の担い手不足などから不健全なところがあります。だから、みんなで、森を再生しよう！

京都市内で、こんな取組が進んでいるよ！



- 京都市内産木材の活用促進
- 林業の振興
- 森林の適切な育成・保全
- 水と緑と風を生かしたまちづくり



【里山の整備】



【ガードレール等への市内産木材の活用促進】